

5. 診 療

1) 病院概況

- (1) 本 院 (院 長：丸毛啓史
副 院 長：谷 諭、井田博幸、浅野晃司・小島博己・安保雅博・小澤かおり
事務部長：横山秀彦)

(1) 患者数

- ① 外来1日平均患者数：2,793名 (対前年度比+49名)
- ② 入院1日平均患者数：890名 (対前年度比+13名)

(2) 病床利用状況

病床利用率は稼働床1,050床に対して84.8% (昨年比+1.3p)、平均在院日数は、12.5日 (昨年比-0.2日) であった。

(3) 紹介率・逆紹介率

紹介率は年間平均で医療法71.4% (昨年比-0.5p)、保険法71.0% (昨年比-1.1p) であった。
逆紹介率は医療法49.2% (昨年比-1.1p)、保険法50.3% (昨年比-0.7p) であった。

(4) 保険関係承認・届出関係

- ① 歯科点数表の初診料の注1に規定する施設基準 (平成30年4月1日) ※変更
- ② 感染防止対策加算1 (平成30年4月1日) ※変更
- ③ 入退院支援加算1 (平成30年4月1日) ※変更
- ④ 夜間休日救急搬送医学管理料の注2に掲げる救急搬送看護体制加算 (平成30年4月1日) ※新規
- ⑤ 療養・就労両立支援指導料注2に掲げる相談体制充実加算 (平成30年4月1日) ※新規
- ⑥ ハイリスク妊産婦連携指導料1・2 (平成30年4月1日) ※新規
- ⑦ 地域連携診療計画加算 (平成30年4月1日) ※新規
- ⑧ 在宅経肛門の自己洗腸指導管理料 (平成30年4月1日) ※新規
- ⑨ 人工腎臓 (慢性維持透析を行った場合1) (平成30年4月1日) ※変更
- ⑩ 導入期加算2及び腎代替療法実績加算 (平成30年4月1日) ※新規
- ⑪ 透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算 (平成30年4月1日) ※変更
- ⑫ 後縦靭帯骨化症手術 (前方進入によるもの) (平成30年4月1日) ※新規
- ⑬ 緑内障手術 (水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術) (平成30年4月1日) ※新規
- ⑭ 人工中耳植込術 (平成30年4月1日) ※新規
- ⑮ 食道縫合術 (穿孔、損傷) (内視鏡によるもの) 等 (平成30年4月1日) ※新規
- ⑯ ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術 (リードレスペースメーカー) (平成30年4月1日) ※新規
- ⑰ バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術 (平成30年4月1日) ※新規
- ⑱ 腹腔鏡下痔腫瘍摘出術 (平成30年4月1日) ※新規
- ⑲ 1回線量増加加算 強度変調放射線治療 (IMRT) (平成30年4月1日) ※変更
- ⑳ 悪性腫瘍病理組織標本加算 (平成30年4月1日) ※新規
- ㉑ 原発性悪性脳腫瘍光線力学療法加算 (平成30年5月1日) ※新規
- ㉒ 遺伝学的検査 (平成30年5月1日) ※変更
- ㉓ 医師事務作業補助体制加算1 (30対1) (平成30年6月1日) ※変更
- ㉔ 医師事務作業補助体制加算1 (25対1) (平成30年7月1日) ※変更
- ㉕ 排尿自立指導料 (平成30年8月1日) ※新規
- ㉖ 仙骨神経刺激装置植込術及び仙骨神経刺激装置交換術 (過活動膀胱) (平成30年9月1日) ※新規
- ㉗ 精密触覚機能検査 (平成30年9月1日) ※新規

- ⑳ 神経学的検査 (平成30年9月1日) ※変更
- ㉑ 画像誘導放射線治療加算 (平成30年9月1日) ※経過措置
- ㉒ 歯科外来診療環境体制加算1 (平成30年10月1日) ※経過措置
- ㉓ 遺伝カウンセリング加算 (平成30年10月1日) ※新規
- ㉔ 腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術 (子宮頸がんに限る) (平成30年10月1日) ※新規
- ㉕ 遠隔放射線治療計画加算 (平成31年1月1日) ※新規
- ㉖ 後発医薬品使用体制加算3 (平成31年2月1日) ※新規
- ㉗ 医師事務作業補助体制加算1 (25対1) (平成31年2月1日) ※経過措置
- ㉘ 特定機能病院入院基本料7対1 (平成31年3月1日) ※変更
- ㉙ 急性期看護補助体制加算50対1 (平成31年3月1日) ※変更
- ㉚ 後発医薬品使用体制加算2 (平成31年3月1日) ※変更
- (5) 先進医療
新規申請・承認 (申請2件、承認2件)
・MRI撮影及び超音波検査融合画像に基づく前立腺針生検法 (泌尿器科)
・反復経頭蓋磁気刺激療法 (rTMS) (精神神経科)
- (6) 臨床研究・保険適用外診療
・承認件数：新規申請167件、変更申請 (期間延長など) 163件
- (7) 指導・監査
- ① 医療法第25条第1項による立入検査 (東京都) (平成30年11月7日)
- ② 医療法第25条第3項による特定機能病院立入検査 (関東信越厚生局) (平成30年11月7日)
- ③ 精神病院等実地指導 (東京都) (平成30年11月7日)
- ④ 施設基準等に係る適時調査 (関東信越厚生局) (平成31年3月14日)
- ⑤ 健康保険法第73条、国民健康保険法第41条及び高齢者の医療の確保に関する法律第66条による個別指導 (東京都、関東信越厚生局) (平成31年3月14日)
- (8) 医療安全
- ① 職員個人の安全確保に対する意識向上への取り組み
安全確保にはチームより前に個人の意識を高め基本的な安全推進活動を習慣化させることが重要と考え、各種委員会、研修会、部署別研修会などにおいて、チェックバック、名前の確認、ハンドオフ、指さし声だし確認などの基本的な安全確認行為の実演を必須とし、習慣化につなげる取り組みを行った。
- ② 診療情報の共有強化に向けた取り組み
・診療情報の非共有による事故を防ぐため、画像診断報告書や病理診断報告書の患者への原則公布を普及すると共に、人的支援、システムの改修や医療安全推進部からの直接・間接連絡により共有させる仕組みを構築した。
・前年度より救急入院患者に対して活用している「ハンドオフシート」の活用率は60%であった。(2018年4月～2019年3月累積)
- ③ TeamSTEPPSの活用に向けた取り組み
TeamSTEPPSエッセンシャルコースを年間4回 (年間参加者247名) 開催し、概念の浸透を強化するとともに、TeamSTEPPSアドバンスコースを年間8回 (年間参加者311名) 開催し、実践への連結強化をはかった。
- ④ 安全文化の醸成を目指した研修会開催
職員対象のセーフティマネジメント基礎研修会を年間14回 (感染対策ベーシックレクチャー合同研修含む)、4病院合同セーフティマネジメントシンポジウムを年間1回行い、医療安全に関する総合的な知識の普及をはかった。また、職種や経験別に、管理者のための医療安全・感染対策研修会、初期臨床研修医対象研修会、レジデント対象研修会、新規採用教職員・転入職員対象研修会、委託・派遣職員対象研修会などを行った。

- ⑤ セーフティマネージャーを主体とした活動
医療安全推進活動の主体をセーフティマネージャー（SM）と位置づけ、SMが主体となり、院内全部署を一年間かけてラウンドすることで安全な医療体制の構築に努めた。またSMを中心に転倒転落・薬剤・中心静脈挿入・その他のワーキンググループを作り、それぞれに特化した集中的な安全推進活動を行った。
- ⑥ 個別対応の強化を目指した活動
個々の医療事故イベント防止を目指して、それぞれのイベントに特化した以下の研修会を行った。転倒・転落予防のための講習会を5回、窒息予防講習会を2回、医薬品安全使用セミナーを6回開催、またインスリンの安全使用について各病棟にて講習会を開催した。その他、褥瘡、栄養管理、脳卒中などについて、それぞれの担当部署と共同したセミナーを開催した。また、安全な中心静脈カテーテル挿入を目指して継続的に認定者の養成に努めた。
- ⑦ 他病院との連携強化に向けた取り組み
慈恵医大附属4病院間では定期的な4病院セーフティマネジメント会議を開催し、問題点の共有を図るとともに、相互ラウンドによる相互チェックを行った。慈恵医大附属4病院以外では、都内の私大病院間の連携強化を目的とした都内私大病院安全連絡会議（COMPASS）を、また全国私大病院間での医療安全連絡会議への参加及び連携強化を目的とした東邦大学医療センター大森病院との相互ラウンドを行った。
- ⑧ 特定機能病院承認要件の院内周知
前年度の特定機能病院承認要件の見直しにより設置した委員会を含めた要件の全教職員への周知を各種委員会・会議、研修会にて行った。
- (9) 感染対策
- ① 多剤耐性菌対策の強化
MBL対策を強化実施しており、病棟ICT活動を中心とした標準予防策実施の強化、抗菌薬適正使用の推進、環境整備の強化について引き続き取り組みを行った。
・手指衛生指数：24.93（前年度比0.02減）
・MBL検出数：3件（前年度比7件減）
・MRSA院内（不明含む）獲得率：0.20（前年度比9%減）
・MRSA菌血症：10件（前年度比8件増）
・抗菌薬AUD：284.7（前年度比9増）
・UVC（環境紫外線照射器）を活用した環境整備の強化
MBLの検出が大幅に減少しており、対策の効果が認められている。
- ② 新興感染症、インフルエンザ、麻疹など持ち込み感染症対策の強化
・市中におけるインフルエンザの流行が過去最高であったことを受け、教職員においても222名と過去最高のインフルエンザ発症状況であった。
1）インフルエンザに伴う病棟閉鎖日数：12日（前年度比12日増）
2）患者予防投与人数：364名（前年度比180名増）
・市中における麻疹・風疹の流行に伴い、外来でブラインドシミュレーションを実施した。患者案内等に課題があることが判明し、2019年度も継続して実施することで外来における感染症トリアージ力を強化していきたい。
- ③ 現場主体的感染対策を推進し強固な感染対策システムを構築する
・感染対策講習会開催回数：95回、のべ受講者人数：7,307人
・全病棟における病棟ICTカンファレンス2回／年継続実施
・小児ICT活動の活性化
小児ICTmeetingを1回／月継続実施した。抗菌薬適正使用に向けた取り組みについては、さらなるデータ改善が認められている。しかし、ノロウイルスアウトブレイク事例が4E病棟・2E病棟で発生しており、スタッフの感染対策practiceについて課

題があることが判明している。2020年1月には新病院への移転を控えており、小児ICTmeetingを通して、さらなる活性化を目指していく。

1) 小児病棟血培2セット率：62.07%（前年度比4.57%増）

2) 小児科DOT：23.56（前年度比1.6減）

④ 学術活動を強化し我が国の感染対策をリードする

・私立医科大学感染対策協議会事務局・推進会議事務局として総会、運営委員会、各専門職部会等の運営について中心となり活動を行った。

1) 2018年9月1日杏林大学にて総会開催

2) 運営会議2回/年開催

3) 東邦大学大森医療センターと相互ラウンド実施

4) 改善支援4校に対し実施

・感染防止対策加算病院との連携、支援

感染防止対策加算Ⅱ病院と年4回のカンファレンスを開催するとともに、感染防止対策加算Ⅰ病院（東京済生会中央病院、東急病院）と相互ラウンドを実施した。

・院外において感染対策担当者を対象としたTeamSTEPPSワークショップの開催

(10) 患者支援・医療連携センター

① 連携登録医制度を開始した。（平成30年11月）登録医件数500件（平成31年3月末時点）

② 病院ホームページに連携医療機関検索コンテンツを公開した。（平成31年1月31日）

③ グリーンカウンターを患者支援・医療連携センターの組織とした。（平成30年6月）

④ 「2人主治医制」による紹介、逆紹介推進に向けリーフレットの配付、ホームページ掲載による広報、周知を行った。

⑤ 治療と就労の両立支援制度の運用を整備、開始した。

⑥ 診療のご案内2018を発行した。（平成30年7月）

⑦ 患者支援・医療連携センターだより「つなぐ つながる」を発行した。

・No.16（平成30年7月）、No.17

（平成31年1月）

⑧ 区中央部糖尿病医療連携検討会の事務局を患者支援・医療連携センターが担当した。

・総会、作業部会（2回）、市民公開講座、医療従事者対象研修会（平成31年2月9日）を開催した。

・市民向け広報紙を作成、発行した。（平成30年6月～平成31年2月）

⑨ 第39回東京慈恵会医科大学附属病院医療連携フォーラム（旧慈恵医大夏季セミナー）を開催した。

・平成30年8月4日（土）、大学1号館講堂（3階）・大学2号館講堂、参加者204人
生涯学習センターと共同で、慈恵医大夏季セミナーの企画を拡大し、講演会と懇親会の構成で開催した。懇親会では診療機器、医療連携ブースの企画展示を行った。

⑩ 「働く人の健康支援研究会」を開催した。

・第9回：平成30年9月28日、参加者245人、“ストレスチェック導入から3年”

・第10回：平成31年3月15日、参加者220人、いまどきのハラスメント傾向と対策

⑪ 地域包括ケア研修会を開催した。（港区、港区医師会との共催）

・第1回：平成30年7月20日、「がん緩和ケア“私らしく輝けるアピアランスケア”」、
大学1号館講堂（3階）、参加者116人

・第3回：平成31年2月22日、「リハビリテーション～病院から在宅へのリハビリ～」、
大学1号館講堂（3階）、参加者115名（東京高輪病院主催）

※第2回は本学の対応はなし。

⑫ 子ども虐待対応チーム（CAPS）主催研修会を開催した。

・「各科における虐待対応、CAPSチームの運用について」

（平成31年2月21日、参加者37人）

⑬ 4機関地域連携システムによる情報共有化に関する検討を開始した。

- ⑭ 国際医療支援に関する以下の項目を実施した。
- ・国際医療部（仮称）設置WGを担当し検討を実施した。
 - ・医療通訳端末を導入し、運用を開始した。（平成30年10月）
 - ・医療渡航支援事業者のRonMedicalと新たに契約を締結した。（平成30年12月1日）
 - ・平成31年4月に国際医療支援室を患者支援・医療連携センターに設置することとした。
- (11) 治験センター
- ① 治験の実施：前年度からの継続58件、新規承認35件（前年比+9件）、終了21件（-2件）であった。うち、医師主導治験は3件であった。
 - ② 臨床試験への実施支援：4件
臨床試験におけるCRC（Clinical Research Coordinator：臨床研究コーディネーター）の支援内容は、治験と同じく被験者対応、スケジュール管理や、データ収集と文書管理等であった。その他、CRCがモニタリング担当者としてその業務を行った。：3試験
 - ③ 臨床研究支援センターおよび倫理委員会事務局との連携
倫理委員会事務局業務等の支援を目的に、CRCおよび治験事務局スタッフが臨床研究支援センターと連携して、倫理委員会事務局業務に協力。治験および臨床試験の現状や両センターの役割拡大、協働について常に情報交換し支援体制を構築した。
臨床研究支援センターに新たに設置された認定臨床研究審査委員会事務局へ支援を行った。
- (12) 地域がん診療連携拠点病院（腫瘍センター事務局）
腫瘍センター事務局として地域がん診療連携拠点病院の指定要件整備と機能強化を推進した。「生活のしやすさに関する質問票」を用いた苦痛のスクリーニング実施、緩和医療の提供を行っている他施設との連携を強化し、内外部の対象患者への対応について更なる改善が施された。その他、院内がん登録3,362件、がん相談1228件、がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会2回開催、市民公開講座1回開催、腫瘍センターセミナー1回開催、腫瘍センターサロン交流会（がん患者とその家族の語らいの場（含むミニ講座））69回開催の実績を残した。5大がん+前立腺がんのクリティカルパスの運用実績は28件であった。
- (13) 患者サービス
- ① 外来待ち時間調査を実施した。（平成30年11月15日）
 - ② 外来患者満足度調査を実施した。（平成30年11月19日～24日）
 - ③ 入院患者満足度調査を実施した。（平成30年11月5日～30日）
 - ④ 入院患者向け移動水族館を実施した。（平成30年9月21日）
 - ⑤ 患者向け広報誌「すこやかインフォメーション」第55号から第57号を発刊した。
 - ⑥ 平成30年度「みんなの健康教室」を以下の日程で開催した。
※NHK放送博物館と共催（患者支援医療連携センター担当）
年間テーマ「未病、予防のための体の知識」
・第1回 5月19日（土）（72名参加） ・第2回 7月21日（土）（45名参加）
・第3回 9月22日（土）（40名参加） ・第4回 11月24日（土）（45名参加）
・第5回 1月12日（土）（45名参加） ・第6回 3月16日（土）（46名参加）
 - ⑦ 附属病院（本院）ホームページリニューアル
平成30年11月1日に附属病院（本院）ホームページをリニューアルした。
- (14) 診療体制の整備
- ① 平成30年4月1日付で東京都難病診療連携拠点病院に指定された。
 - ② 平成31年1月1日付でメモリーセンターを開設した。
 - ③ 平成31年1月5日より新橋健診センターが北棟2階に移転し、リニューアルオープンした。
 - ④ 病院救急車輛の運用は、小児科を中心とした患者搬送を13件（要請17件）行った。
- (15) 工事関係
- ① RI配管からの漏洩線量対策に伴う中央棟2階当直室工事（平成30年8月）
 - ② 新外来棟との連絡通路設置に伴うE棟1階クリーニング店移転（平成31年2月）

- (16) 東京都赤十字血液センターによる献血が実施された。
 平成30年5月30日(水)、5月31日(木) 献血者111名(申込者数121名)
 平成30年11月26日(月)、11月27日(火) 献血者86名(申込者数95名)
- (17) 「東京慈恵会医科大学附属病院年報」の発刊
 平成29年度版を平成30年10月に発刊した。
- (18) 臨床研修
 平成30年度初期臨床研修採用者は、医科37名(内訳:本学卒15名、他学卒22名)、歯科3名の計40名であった。
- (19) 研修会・講習会
- ① がんに関わる医師に対する緩和ケア研修会(年度2回)
- ・第20回緩和ケア研修会 平成30年8月18日(土)～19日(日) 於:南講堂
 修了者:医師31名(本学31名)
 - ・第21回緩和ケア研修会 平成31年1月19日(土)～20日(日) 於:南講堂
 修了者:医師26名(本学26名)
- ② 慈恵ICLSコース, 慈恵BLSコース
- ・慈恵ICLSコースを5回開催した。

日 時:	平成30年5月19日(土)	午後1時30分～午後6時	葛飾	参加24名
日 時:	平成30年7月14日(土)	午後1時30分～午後6時	本院	参加24名
日 時:	平成30年11月10日(土)	午後1時30分～午後6時	柏	参加24名
日 時:	平成31年2月9日(土)	午後1時30分～午後6時	本院	参加18名
日 時:	平成31年3月9日(土)	午後1時30分～午後6時	第三	参加24名
 - ・ICLS指導者ワークショップ(インストラクター更新要件)を3回開催した。

日 時:	平成30年7月13日(金)	午後6時～午後10時	本院	参加15名
日 時:	平成30年7月14日(土)	午前8時～午後0時		
日 時:	平成30年11月9日(金)	午後6時～午後10時	柏	参加12名
日 時:	平成30年11月10日(土)	午前8時～午後0時		
日 時:	平成31年2月8日(金)	午後6時～午後10時	本院	参加6名
日 時:	平成31年2月9日(土)	午前8時～午後0時		
 - ・慈恵BLSコースを年間5回開催した。

日 時:	平成30年6月9日(土)	午後3時～午後5時		参加9名
日 時:	平成30年7月7日(土)	午後3時～午後5時		参加10名
日 時:	平成30年10月13日(土)	午後3時～午後5時		参加11名
日 時:	平成30年12月8日(土)	午後3時～午後5時		参加16名
日 時:	平成31年3月9日(土)	午後3時～午後5時		参加15名
 - ・PBLSコース(小児心肺蘇生コース)を2回開催した。

日 時:	平成30年9月22日(土)	午後1時～午後3時		参加3名
日 時:	平成30年11月24日(土)	午後1時～午後3時		参加3名
 - ・JAMPコース(緊急気道管理コース)を4回開催した。

日 時:	平成30年5月12日(土)	午後1時～午後7時	柏	参加22名
日 時:	平成30年8月18日(土)	午後1時～午後7時	本院	参加18名
日 時:	平成30年10月27日(土)	午後1時～午後7時	第三	参加15名
日 時:	平成30年12月14日(土)	午後1時～午後7時	葛飾	参加14名
 - ・心肺蘇生に関する家族参加型市民公開講座を5回開催した。

日 時:	平成30年4月14日(土)	午後1時～午後2時		参加6名
日 時:	平成30年6月23日(土)	午後1時～午後1時		参加1名
日 時:	平成30年8月18日(土)	午前10時～午前11時30分		参加14名
日 時:	平成30年12月22日(土)	午後1時～午後2時		参加15名
日 時:	平成31年2月16日(土)	午後1時～午後2時		参加6名

③ 保険診療に関する講習会

- ・第1回 平成30年4月23日(月)「医療保険とカルテ記載の基礎」 2号館講堂
- ・第2回 平成30年5月17日(木)「診療録の書き方講習会」 大学1号館講堂
- ・第3回 平成30年6月19日(火)「外科系アドバンス～再指導に向けて」 大学1号館講堂
- ・第4回 平成30年7月30日(月)1部「院内個別指導結果報告」 2号館講堂
- ・第5回 平成30年7月30日(月)2部「院内個別指導結果報告」 2号館講堂
- ・第6回 平成30年9月26日(水)「内科系アドバンス」 大学1号館講堂
- ・第7回 平成30年11月16日(金)「保険診療のピットホール」 大学1号館講堂
- ・第8回 平成30年12月10日(月)「保険診療に関わる集団指導」 2号館講堂
- ・第9回 平成30年12月11日(火)「査定の傾向と対策/診療録監査報告」 大学1号館講堂
- ・第10回 平成31年2月4日(火)「指導の立場から」 大学1号館講堂

(20) 慈恵医大晴海トリトンクリニック(所長:加地正伸)

- ① 外来1日平均患者数77人(対前年比-5人)
- ② 健診1日平均健診者数22人(対前年比-4人)

(21) 港区立がん在宅緩和ケア支援センター「ういケアみなと」(施設長:岩田真)

- ① 開設記念式典を平成30年4月14日(土)に開催し、オープニング記念講演会を4回開催した。 参加者 91人
- ② 年間がん相談件数 面談130件 電話114件
- ③ 生活の質向上セミナー(看護師)を年間9回開催した。 参加者 77人
- ④ 栄養セミナーを年間11回開催した。 参加者 157人
- ⑤ リハビリテーションセミナーを年間9回開催した。 参加者 78人
- ⑥ アピアランスセミナーを年間3回開催した。 参加者 0人
- ⑦ 両立支援セミナーを年間1回開催した。 参加者 2人
- ⑧ 医師による緩和ケア区民講演会を年間2回開催した。 参加者 44人
- ⑨ 訪問看護ステーションや介護事業所向けのがん在宅緩和ケアに関する研修会を年間4回開催した。 参加者 32人
- ⑩ その他の事業を年間7回開催した(ボイストレーニング、リラクゼーションエクササイズ2回、声ヨガ、アロマセラピー&音楽療法、アピアランスミニ講座、アロマバスボムづくり) 参加者 140人
- ⑪ みなと区民まつり(平成30年10月6日(土))とがん対策みなと2018(平成30年10月20日(土))に出展した。

(2) 葛飾医療センター(院長:吉田和彦、
副院長:児島章、根本昌実、飯田誠、
事務部長:伊藤敬夫、
看護部長:玉上淳子)

(1) 患者数・病床利用状況

- ・1日平均患者数は外来1,172名(前年度比+14名)、入院332名(前年度比+8名)であった。
- ・病床利用率は稼働床365床に対して90.8%(前年度89.0%)、平均在院日数は11.3日(前年度11.2日)であった。

(2) 患者紹介率

- ・患者紹介率は医療法75.6%(前年度74.5%)、保険法69.6%(前年度68.9%)であった。

(3) 諸官庁への届出・報告等

1) 院長交代に係る届出

- ① 保険医療機関届出事項変更届(関東信越厚生局) (平成30年4月2日)
- ② 病院開設許可事項一部変更届(東京都福祉保健局) (平成30年4月2日)
- ③ 救急医療機関申請事項変更届(東京都福祉保健局) (平成30年4月2日)